



エンバゴ（解禁時間）：2026年3月17日（日本時間）17:25

## 歴史学者 リンダル・ローパー教授は 2026 年ホルベア賞受賞者に決定

（ノルウェー・ベルゲン）人文・社会科学、法学、神学の分野において卓越した研究者に毎年授与される、世界的にも最大規模の国際賞の一つであるホルベア賞は、本日、オーストラリア出身の研究者 リンダル・ローパー教授 を 2026 年の受賞者として発表しました。

ローパー教授はオックスフォード大学における Regius Chair of History の名誉教授です。ローパー教授には、2026年6月4日にノルウェー・ベルゲン大学で行われる授賞式において、6,000,000 ノルウェークローネ（約¥9818万）が授与されます。

ローパー教授は、初期近代ヨーロッパ史研究における世界的な第一人者として高く評価されています。ローパー教授の先駆的な研究は、魔女狩り、ドイツ農民戦争（1524–1525）、およびマルティン・ルターの生涯と思想に対する理解を刷新し、16世紀の社会・宗教的対立の中で、ジェンダー、身体、心性、そして権力がどのように作用していたのかを明らかにしてきました。ローパー教授の研究は、その方法論上の革新性と学際的な境界を越える力によって広く知られています。

ローパー教授の主要著作の一つに *Oedipus and the Devil*（1994）があります。本書は、身体と心性が歴史的経験から切り離せないことを強調することで、ジェンダーと文化に対する新たな理解を提示したものです。身体・魔術・宗教・セクシュアリティが交差する領域における心理的力動を探究し、初期近代ヨーロッパにおける男性性、残虐性、名誉観念を考察しています。ローパー教授は、16世紀において男性性がどのように政治的手段として機能し得たのか、また暴力、飲酒、性的行動、社会的規律がプロテスタントのアイデンティティ形成にいかに関与したのかを示して

います。

ローパー教授は、*Witch Craze: Terror and Fantasy in Baroque Germany* (2004) において、南ドイツの数百件におよぶ裁判記録を分析し、魔女狩りや宗教改革期の諸現象は、感情、欲望、恐怖に注意を払わずして理解できないことを明らかにしています。ローパー教授は、母性、老い、そして生殖に関する観念が魔女裁判における告発を支えていたことを示すとともに、自白がどのように引き出され、当時の裁判官たちにとって説得力を持つものとなったのかを説明しています。さらに本書は、これらのイメージが現代における“魔女”の文化的理解にいかに関与しているのかも示しています。本書は 2005 年に *Roland H. Bainton Prize* を受賞しました。

ローパー教授の研究は、宗教改革を象徴する最重要人物である マルティン・ルターに対しても新たな視座を提供しています。ローパー教授は、ルターの言語表現、自己呈示、身体的経験、そして感情の表し方が、彼の神学のみならず公的指導者としての役割をどのように形作ったのかを明らかにしています。*Der feiste Doktor* (2012)、*Martin Luther: Renegade and Prophet* (2016)、および *Living I Was Your Plague: Martin Luther's World and Legacy* (2021) といった著作において、ローパー教授は、粗野な言い回しの使用から権威の示し方に至るまで、ルターの行動すべてが 16 世紀の政治的・宗教的激動にいかに関与したのかを検証しています。こうしてルターは、改革者であるだけでなく、その時代の対立、文化的前提、心理的緊張によって形づくられた歴史上の一個人として浮かび上がってきます。

ローパー教授の最新の大規模研究である *Summer of Fire and Blood: The German Peasants' War* (2025) は、2025 年に *Cundill History Prize* を受賞しました。本書は、フランス革命以前のヨーロッパ最大の民衆蜂起である農民戦争について、英語による主要研究としては一世代ぶりとなる本格的な概説を提示するものです。本作は、初期近代期における最も重要な民衆蜂起の一つを燃え立たせた社会的緊張、宗教的動揺、政治的暴力を生き生きと再構成するとともに、その渦中に巻き込まれた個々人の実際の経験をも照らし出しています。ローパー教授のその他の重要な著作には、*The Holy Household: Women and Morals in Reformation Augsburg* (1989) およ

び *The Witch in the Western Imagination* (2012) があります。

自身の研究の主要な目的について、受賞者であるローパー教授は次のように述べています。「これまでのキャリアを通じて、私は“下からの歴史”を描こうとしてきました。つまり、あらゆる背景、肌の色、階層に属するごく普通の人々、そしてとりわけ女性たちの声を歴史に取り込むことを目指してきたのです。私は、偉人や巨大な出来事だけに焦点を当てない、新しい歴史叙述を求めていました。」

「ここで思うのは、母親としての経験によって“言葉にできないもの”がいかに重要であるか、そしてコミュニケーションは必ずしも言語に依存しないのだということを実感した、という点です。また、私たちが書く歴史の中心にジェンダーを据えたいとも考えていました。人々の身体的経験を歴史に取り込みたい、そして無意識的な動機についても考察したいと思ったのです。」

ホルベア賞委員会委員長の アン・フィーニックス教授は声明の中で、次のように述べています。「リンダル・ローパー教授は初期近代ヨーロッパ研究における最も卓越した学者の一人であり、きわめて独創的な歴史家です。」フィーニックス教授は続けます。「ローパー教授の研究は、初期近代に関する従来の前提を揺さぶるものです。ローパー教授は、2026年ホルベア賞の受賞者として極めてふさわしい人物です。」

### **ノルウェー政府およびオックスフォード大学からの祝辞**

ノルウェー政府も祝意を表しています。「ノルウェー政府を代表して、リンダル・ローパー教授が2026年ホルベア賞を受賞されることに心よりお祝いを申し上げます」と、研究・高等教育大臣のシグルン・オースランは述べています。「ローパー教授の研究はヨーロッパ史に新たな視点をもたらし、過去の思想や信念がいかに今日の私たちが形づくり続けているかを示しています。ローパー教授の研究は、私たちが生きる社会を理解するうえで、人文学が不可欠である理由を明確に示すものです。」

オックスフォード大学人文学部長のダン・グリムリー教授も祝意を述べています。「当学部の Regius Chair of History を務める リンダル・ローパー教授が、名誉あるホ

ルベア賞を受賞されたことを大変嬉しく思います」とグリムリー教授は述べています。「同賞は『国際的な研究に決定的な影響を与えた人物』に授与されるものですが、ローパー教授ほどふさわしい受賞者はほかに思い浮かびません。彼女の研究と著作は、マルティン・ルター の理解、魔女史研究、16世紀ドイツ美術、ジェンダー史など、多岐にわたる分野に大きく貢献してきました。歴史学部の学生や若手研究者も、長年にわたりローパー教授の教育と支援の恩恵を受けてきました。今回の受賞により、こうした功績が正式に認められたことを私たちは心から喜んでいきます。」

### 受賞者略歴

リンダル・ローパー教授は、オックスフォード大学の **Regius Chair of History** に任命された初の女性であり、初のオーストラリア出身者でもあります。ローパー教授は2011年以來この職を務めてきました。また、ローパー教授はロンドン大学 **Royal Holloway** で教授職を務め、さらに **King's College London** でも教鞭を執り、同校で1985年に博士号（PhD）を取得しています。ローパー教授は1999年に **Bedford Centre for the History of Women and Gender** を共同設立しました。オックスフォード大学における **Regius Prize** は、若手研究者の育成および彼女の活力ある教育への貢献を称えて創設されたものです。ローパー教授は **British Academy** のフェローであり、**Australian Academy of the Humanities** のフェロー、さらに **Berlin-Brandenburg Academy of Sciences and Humanities** のフェローでもあります。2016年には、歴史学における生涯の業績を称えて **Gerda Henkel Prize** を受賞しました。

### ホルベア賞について

ホルベア賞は、2003年にノルウェー議会によって創設されたもので、人文・社会科学、法学、神学の分野における卓越した研究成果に対して毎年授与される、世界最大級の国際研究賞の一つです。同賞は、ノルウェー政府が教育・研究省からベルゲン大学への直接拠出を通じて資金提供しています。過去の受賞者には、**Jürgen Habermas**、**Manuel Castells**、**Onora O'Neill**、**Cass Sunstein**、**Paul Gilroy**、**Sheila Jasanoff**、**Achille Mbembe**、**Gayatri Chakravorty Spivak** などが含まれます。ホルベア賞の候補者は、大学、アカデミー、その他の研究機関に所属する研究者であれば誰でも推薦することができます。推薦締切日は毎年6月15日です。ホルベア賞の詳細については、<https://holbergprize.org/> をご覧ください。プレス写真、略歴、委員会推薦文、専門家連絡先情報などについては、<https://holbergprize.org/about-us/pressroom/> を参照してください。